

# 令和3年度札幌国際芸術祭実行委員会事業計画書

(令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)

## 1 札幌国際芸術祭（SIAF）2023の開催準備

### (1) 基本方針の決定

開催時期や主要会場、展示の方向性など、SIAF2023の基本方針を決定する。

### (2) 実施体制の構築

SIAF2023開催に向け、ディレクターやキュレーター、デザイナー、専門スタッフ等の選定など、実施体制の構築を図る。

### (3) 開催計画の検討

テーマや参加アーティスト、主要プログラムなどの検討を行う。

## 2 広報プロモーション

### (1) WEB・SNSを活用した情報発信

SIAFへの関心や開催に向けた機運を高めるため、WEB・SNSを活用した情報発信を継続して実施する。

### (2) 広報連携

東京オリンピック・パラリンピック競技大会やさっぽろ雪まつり等、市内開催イベントと連携した広報展開を実施する。

## 3 SIAF普及事業

### (1) ワークショップ、トークイベント

ワークショップやディレクターによるトークイベント等を開催し、これまでSIAFや現代アートに関わる機会が少なかった層にも関心を持ってもらうきっかけ作りを行う。

### (2) YouTube配信プログラム

令和2年度に作成した動画コンテンツを活用しながら、現代アートやSIAFにゆかりのある人、アイヌ文化などを紹介するプログラムをYouTubeで配信する。

### (3) 展示イベント

現代アートやSIAFの取組等を紹介する展示イベントを開催する。開催時期については、東京オリンピック・パラリンピック競技大会やさっぽろ雪まつりの会期に合わせるなど効果的に実施する。

## 4 SIAF ラウンジの活用

### (1) SIAF ラウンジにおける情報発信

札幌市資料館内にある「SIAF ラウンジ」を活用し、当該文化財施設を訪れる観光客等の来場者に対し、SIAFに関するアーカイブ（冊子、写真、動画等の記録資料）や今後の活動に関する情報を提供する。

### (2) SIAF ラウンジオンライン

SIAF ファンやアートファンとの継続的な関係性を構築するため、オンライン会議システム Zoom を活用したオンラインサロン「SIAF ラウンジオンライン」を定期的で開催する。ゲストスピーカーや国内外からの参加者による双方向のコミュニケーションが可能な場を提供する。

## 5 SIAF ラボの活動

札幌国際芸術祭を支える文化の土壌づくりを主たる目的として活動する「SIAF ラボ」において、メディアアートを中心としたさまざまなプロジェクトを継続的に展開する。

### 【主な活動メンバー（予定）】

氏名	肩書
久保田 晃弘	アーティスト／多摩美術大学情報デザイン学科教授
小町谷 圭	メディア・アーティスト／札幌大谷大学芸術学部准教授
石田 勝也	札幌市立大学デザイン学部講師
船戸 大輔	エンジニア／株式会社アートフル代表取締役
平川 紀道	アーティスト

### 【主なプロジェクトの内容】

#### (1) エクストリーム・データロガー & ラディカル・データ・ビジュアライゼーションプロジェクト

北海道の自然環境（寒冷地・海等）や札幌の都市機能（除排雪等）をテーマに、独自のデータロガー（データ取得装置）を調査・研究の上開発し、それにより取得したデータをメディアアートとして視覚化していくプロジェクトを実施する。

#### (2) 市民参加ワークショップ

上記プロジェクトの一環として、データロガーを活用した作品づくりを体験するワークショップ等を実施する。

#### (3) さっぽろウインターチェンジ 2022

札幌文化芸術交流センターSCARTS と協働し、札幌の冬や雪などの題材を様々な表現に変換するプロジェクト「さっぽろウインターチェンジ」において、冬期間の展示を企画する。

#### (4) アートエンジニアリングスクール

メディアアーツ都市札幌の次世代を担う展覧会エンジニア等のメディアアート人材を育成するため、レクチャー動画やアート・エンジニアインタビュー動画の配信、制作現場見学授業「バックステージ・パス」等を主にオンラインで開催する。

## 6 人材の育成

### (1) SIAF 部

アートマネージメント等のスキルを習得することができる人材育成プログラムとして、レクチャーや展示イベント等における活動を実施する。

### (2) アートエンジニアリングスクール【再掲】

5 SIAF ラボの活動(4)参照